

## 41 学院手話通訳学科におけるインターネットによる動画配信

学院手話通訳学科 市田泰弘・木村晴美・宮澤典子・野口岳史

高等教育機関が講義や教材をオンラインで無料公開することはいまや当たり前のことになりつつある。もちろん広報活動としての意味合いも大きい。「オープン・コース・ウェア (OCW)」と呼ばれる講義動画や教材の無料公開は、マサチューセッツ工科大学 (MIT) が2003年9月に開始したことをきっかけに世界的に広まった。講義の様子や教材をそのまま公開することが多いのは、おもに費用や教師の負担を増やさないためである。OCW の普及の背景には条件の整備がある。わが国のインターネット利用普及率は13歳～40歳代で95%を超え、60歳代でも70%以上に達している (総務省調査 2013年)。一方、2006年以降、動画共有サイト (YouTube 等) が一般化して独自サーバーを準備する必要がなくなり、動画による公開の可能性が一気に広がった。現在、民間の動画共有サイトは公的機関にも多く利用されている (例: 厚生労働省の YouTube チャンネル; <https://www.youtube.com/user/MHLWchannel>)。

手話は視覚言語であり紙媒体での伝達には限界がある。手話通訳学科の教材はそのほとんどが動画であり、学科の成果の発信を紙媒体で行うことが難しかった。インターネットによる動画配信の条件が整う中、受験者の減少と定員割れにより広報活動の充実が求められている手話通訳学科にとって動画配信は喫緊の課題であった。そこで、手話通訳学科では本年10月26日に YouTube のチャンネルを利用した動画配信を開始した。公開する動画は講義動画や既存教材ではなく、新たに撮影・編集したものである。これは、既存教材を解説なしで公開しても利用価値が少なく、かといって新たに解説を加えることは教官の負担を考えると現実的ではないと判断したためである。新たに撮影する教材は解説を最小限にとどめる形をめざすとともに、選定にあたっては学科内でも利用可能なものを優先することにした。今後は通常の教材作成の段階でオンライン公開の適否を検討し、適する場合には公開利用を前提に撮影・編集を行うことで、教官の負担を最小限にすることができると考えている。今後発信していく内容としては、辞書機能、文法解説、練習問題などを想定している。競合する無料配信動画との差別化を図るためには、シンプルで合理的な編集、理論的な解説が重要である。また、受験者拡大につなげるために、初学者のみならず、中級者、上級者、現任通訳者などさまざまな層に役立つ教材を順次取り上げていく予定である。配信した動画の視聴回数を増やすための方策を講じることも重要である。サイト内検索や、各種検索エンジンで上位にランクされるように、タイトルや説明文を工夫する必要がある。ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) との連携も不可欠である。学院では現在 Facebook 公式ページ (<https://www.facebook.com/rehab.gakuin/>) を開設しており、そこに動画のアップロード情報を掲載している。今後、学科独自の Facebook 公式ページの開設も含めて、ソーシャルメディアによる情報発信を強化していくことも検討したい。

なお、動画公開にあたっては、「厚生労働省情報セキュリティポリシー (平成27年10月1日改定)」の「ソーシャルメディアサービスによる情報発信 (p. 48-50)」に定められた各項目を遵守した。